

「情報公開文書」

以下、本文-----

がんの極性に注目した転移進展機序の解明

1．研究の対象

- 2001年1月1日から2019年12月31日の間に京都大学医学部附属病院呼吸器外科で、肺がんの手術を受けられた方

2．研究目的・方法

（目的）

がんのもとになる細胞は「上皮細胞」と呼ばれています。例えば胃の上皮細胞からできたがんが胃がん、肺の上皮細胞からできたがんが肺がんです。上皮細胞には表と裏があります。胃の細胞が食べ物と接する面、肺の細胞が空気と接する面を「表」とすると、それぞれの細胞が血管など臓器と繋がっている側が「裏」です。このように、細胞の表裏がはっきりと区別された状態を「細胞極性」と呼びます。そして、上皮細胞からできたがん細胞にも、細胞極性が存在します。これまで、細胞極性という観点からがんを研究するというアイデアはあまりありませんでしたが、我々のグループでは、細胞極性を標的とした癌治療の開発を目指し、新しい視点で癌組織の詳細な観察を始めようとしています。

（方法）

肺がんの中で「micropapillary carcinoma」という特徴を持つ症例を対象に、すでに検査や手術で摘出され、病理標本となったがん組織を用います。がん細胞に出現している様々なタンパクの量や分布を調べ、がんにおける細胞極性の特徴を調べます。そして、その特徴ががんの悪性度や治療経過と関係があるかについて調べます。

本研究の研究期間は20XX年X月から2025年3月31日です。

3．研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、血液検査データ、画像検査データ 等

試料：手術で摘出した組織の病理標本

4．個人情報への配慮

研究のために、個人が特定できるような情報は除いたうえで、年齢・性別や検査データ等の情報を用いる場合もあります。情報の管理は、特定の関係者以外がアクセスできないように行います。

5 . 研究資金・利益相反

本研究の資金は、公的研究費（科研費・AMED）により賄います。当講座は株式会社KBBMの産学協同講座ですが、本研究自体はKBBMとの共同研究として行うものではありません。

利益相反については、「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント規程」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査・管理しています。

6 . お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、該当する可能性のある方は下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都大学医学研究科

クリニカルバイオリソース研究開発講座

特定助教 近藤 純平

住所：〒606-8304 京都市左京区吉田下阿達 46

(E-mail) kondo.jumpei.2n@kyoto-u.ac.jp

(お問い合わせは、e-mail 又は郵送でお願いいたします。)

京都大学医学部附属病院 相談支援センター

(Tel) 075-751-4748 (E-mail) ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp

研究責任者：

京都大学大学院 医学研究科

クリニカルバイオリソース研究開発講座

特定教授 井上 正宏

-----以上